

Doors open 10:00

Kyoto Kanze Regular Performances 27 Sun Apr. 2025 11:00 a.m.-4:30 p.m.

京都観世会四月例会

令和7年4月27日(日) 午前11時 開演 (午前10時開場)

〈能〉

Ominameshi

女郎花

深野貴彦

〈狂言〉

Sakka

察化

茂山逸平

〈能〉

Hanjo

班女

田茂井廣道

〈能〉

Nue

鶴白頭

味方玄



主催 公益社団法人 京都観世会

TICKETS

3/1 10:00 発売


一般前売指定席券 (1階) ¥8,500
Advance reserved seat (1st floor)

一般前売自由席券 ¥6,500
Advance non-reserved seat

一般当日券 (自由席) ¥7,000
Same-day (Non-reserved seat)

学生券 (2階自由席) ¥3,000
Student (2nd floor)

※通信講座受講生、放送大学、
老人大学は一般料金です。

WEB予約で座席指定できます。
電子チケット  チケットれすQ も選択できます。



チケット販売

Noh Play Theater
Kyoto Kanze Kaikan

会場 **京都観世会館**

〒606-8344
京都市左京区岡崎円勝寺町 44
(東山仁王門東入)



京都観世会館 HP

お問合せ・お申込み

京都観世会館

Tel: 075-771-6114
<http://www.kyoto-kanze.jp>



地下鉄東西線「東山駅」①番出口から徒歩約5分
京都市バス「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車
徒歩約3分
「東山仁王門」下車徒歩約5分
東隣に有料駐車場(約20台)がございます。



日本語 Map



English Map

京都観世会四月例会

(能)

頼風(美ノ靈)宮本茂樹
小野頼(老花守)深野貴彦

女郎花

旅僧 福王知登 大鼓 河村 大
小鼓 成田 奏 太鼓 井上 敬介
間 薙ノ者 鈴木 実 笛 杉 信太郎

察化

太郎冠者 茂山逸平

主人 茂山千五郎
すっぱ 茂山あきら

(二時過)

班女

花子 田茂井廣道 大鼓 石井 景之
吉田少将 小林 努 小鼓 林 吉兵衛
從者 宝生尚哉 笛 赤井 啓三
從者 宝生朝哉 宿ノ長 茂山千之丞

休憩十五分

兼平 (仕舞) 橋本光史
兼平 武田邦弘
兼平 鶴之段

(三時頃)

鶴

舟人 味方 玄 (能)
白頭 旅僧 岡 充 大鼓 河村 凜太郎
間 里人 山下守之 小鼓 吉阪 一郎 太鼓 前川 光範
笛 森田 保美

後見・地謡

(後見) 大江 広祐 寺澤 拓海 大江 信行
杉浦 豊彦 河村 浩太郎 浦田 保親
地謡 河村 和貴 浦田 保浩
松野 浩行 分林 道治

(後見) 山下守之

(後見) 河村 晴久 浅井 風矢 吉田 篤史
林喜右衛門 樹下 千慧 河村 晴道
(宗一郎改メ) 大江 泰正 片山 伸吾
橋本 忠樹 吉浪 壽晃

(地謡) 青木 真由人
吉田 潔司
井上 裕久
河村 博重

(後見) 味方 團 味方 梓 浦部 幸裕
片山 九郎右衛門 地謡 谷 弘之助 古橋 正邦
井上 裕之真 青木 道喜
梅田 嘉宏 越賀 隆之

解説

おみなし
女郎花
九州松浦湯の僧が上洛する途中、故郷の宇佐八幡と同一体の石清水八幡宮へ参詣しようとして男山の麓に着き、女郎花が美しく咲き乱れているので一本手折ろうとする。野辺の花守の老翁が現れてそれを咎めるが、古歌を引いての問答により手折ることを許される。日も暮れ、老翁は僧を月下の男山八幡宮社前に案内する。僧が女郎花の謂れを尋ねると、老翁は更に麓の男塚、女塚にも僧を連れて行き、これは小野頼風夫婦の墓であると教え、実は自分がその頼風であると言つて消え失せる。(中入)

班女

吉田少将は都より東国へ途次、野上宿で遊女花子と馴れ親しみ、旅の復路に再び会うことを約束し、しるしに扇を交換して東へ下つた。以来花子は他の客の座敷へも出す。扇を眺めて陶然としている。宿の長はたびたび意見を言うが従わないので、終に宿から追いやす。(中入)

察化

吉田少将は都へ上る途中、再び野上へ寄り花子を訪ねるが、もはや行方知れずとなつてゐた。そこで道を急ぎ京に帰り、男女の縁を結び、めでたき名高い札の森、下鴨神社に赴く。また、鶴になり、班女とあだ名され、狂女となつて扇を抱いてさすらい、神々に少将との再会を祈誓している。札の森で少将の従者と出会い、「班女の扇は」との問いに、「恋し人の心に捨てられたこと、を秋の扇に例え、中国の故事をひいて恋の切なさをおの持つ扇に気付き、めでたき再会となる。

鶴 白頭
旅の僧が都に上ろうと撰津国芦屋の里に着く。里に宿を頼んで断られ、夜な夜な光るものが出るという州崎の堂に泊る。すると、不思議な怪しい姿の舟人がやって来て、自分の心の闇を弔つてほしいと頼む。どのように見ても人間とは思えないので、僧が名を問うと、源頼政に退治された鶴の亡霊であると名り、請われるままに、頼政の矢先にかつた有様を物語り、また、うつほ舟に乗り、恐ろしい鳴声を残して、亡霊は消えてゆく。(中入)

鶴 白頭
旅の僧が都に上ろうと撰津国芦屋の里に着く。里に宿を頼んで断られ、夜な夜な光るものが出るという州崎の堂に泊る。すると、不思議な怪しい姿の舟人がやって来て、自分の心の闇を弔つてほしいと頼む。どのように見ても人間とは思えないので、僧が名を問うと、源頼政に退治された鶴の亡霊であると名り、請われるままに、頼政の矢先にかつた有様を物語り、また、うつほ舟に乗り、恐ろしい鳴声を残して、亡霊は消えてゆく。(中入)

鶴 白頭
旅の僧が都に上ろうと撰津国芦屋の里に着く。里に宿を頼んで断られ、夜な夜な光るものが出るという州崎の堂に泊る。すると、不思議な怪しい姿の舟人がやって来て、自分の心の闇を弔つてほしいと頼む。どのように見ても人間とは思えないので、僧が名を問うと、源頼政に退治された鶴の亡霊であると名り、請われるままに、頼政の矢先にかつた有様を物語り、また、うつほ舟に乗り、恐ろしい鳴声を残して、亡霊は消えてゆく。(中入)

鶴 白頭
旅の僧が都に上ろうと撰津国芦屋の里に着く。里に宿を頼んで断られ、夜な夜な光るものが出るという州崎の堂に泊る。すると、不思議な怪しい姿の舟人がやって来て、自分の心の闇を弔つてほしいと頼む。どのように見ても人間とは思えないので、僧が名を問うと、源頼政に退治された鶴の亡霊であると名り、請われるままに、頼政の矢先にかつた有様を物語り、また、うつほ舟に乗り、恐ろしい鳴声を残して、亡霊は消えてゆく。(中入)

鶴 白頭
旅の僧が都に上ろうと撰津国芦屋の里に着く。里に宿を頼んで断られ、夜な夜な光るものが出るという州崎の堂に泊る。すると、不思議な怪しい姿の舟人がやって来て、自分の心の闇を弔つてほしいと頼む。どのように見ても人間とは思えないので、僧が名を問うと、源頼政に退治された鶴の亡霊であると名り、請われるままに、頼政の矢先にかつた有様を物語り、また、うつほ舟に乗り、恐ろしい鳴声を残して、亡霊は消えてゆく。(中入)

鶴 白頭
旅の僧が都に上ろうと撰津国芦屋の里に着く。里に宿を頼んで断られ、夜な夜な光るものが出るという州崎の堂に泊る。すると、不思議な怪しい姿の舟人がやって来て、自分の心の闇を弔つてほしいと頼む。どのように見ても人間とは思えないので、僧が名を問うと、源頼政に退治された鶴の亡霊であると名り、請われるままに、頼政の矢先にかつた有様を物語り、また、うつほ舟に乗り、恐ろしい鳴声を残して、亡霊は消えてゆく。(中入)

鶴 白頭
旅の僧が都に上ろうと撰津国芦屋の里に着く。里に宿を頼んで断られ、夜な夜な光るものが出るという州崎の堂に泊る。すると、不思議な怪しい姿の舟人がやって来て、自分の心の闇を弔つてほしいと頼む。どのように見ても人間とは思えないので、僧が名を問うと、源頼政に退治された鶴の亡霊であると名り、請われるままに、頼政の矢先にかつた有様を物語り、また、うつほ舟に乗り、恐ろしい鳴声を残して、亡霊は消えてゆく。(中入)

鶴 白頭
旅の僧が都に上ろうと撰津国芦屋の里に着く。里に宿を頼んで断られ、夜な夜な光るものが出るという州崎の堂に泊る。すると、不思議な怪しい姿の舟人がやって来て、自分の心の闇を弔つてほしいと頼む。どのように見ても人間とは思えないので、僧が名を問うと、源頼政に退治された鶴の亡霊であると名り、請われるままに、頼政の矢先にかつた有様を物語り、また、うつほ舟に乗り、恐ろしい鳴声を残して、亡霊は消えてゆく。(中入)

鶴 白頭
旅の僧が都に上ろうと撰津国芦屋の里に着く。里に宿を頼んで断られ、夜な夜な光るものが出るという州崎の堂に泊る。すると、不思議な怪しい姿の舟人がやって来て、自分の心の闇を弔つてほしいと頼む。どのように見ても人間とは思えないので、僧が名を問うと、源頼政に退治された鶴の亡霊であると名り、請われるままに、頼政の矢先にかつた有様を物語り、また、うつほ舟に乗り、恐ろしい鳴声を残して、亡霊は消えてゆく。(中入)

お客様へお願い

- ◆都合により出演者に変更がある場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- ◆許可なき写真撮影・録音・録画はお断りいたします。
- ◆上演中は、携帯電話など音や光を発する機器の電源はお切りください。
- ◆見所(客席でのご飲食はご遠慮ください)。
- ◆東隣に有料駐車場がございます。満車の際は岡崎公園市営地下駐車場等をご利用ください。

【表紙写真】

《女郎花》河村 禎一
金の星渡辺写真場撮影

次回予告

京都観世会五月例会

令和7年5月25日(日)

午前11時開演

(能) 高野物狂 井上 裕久

(狂言) 鈍根草 小笠原 由禎

(能) 花 筐 分林 道治

(能) 善 界 味方 團

附祝言 (終了予定 四時半頃)

【お知らせ】

今後の状況の変化により、当日券販売の有無や催し物の内容等が変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。
「字幕解説サービス」専用端末は千円(税込)にて貸出いたします。